

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年5月8日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) 【No.10】

「JR労研」と革マル派の主張は酷似！

前号で紹介した「JR労研」の正式名称は「JR労働研究会」と言う。1999年6月に設立され、「JR労働者の実践」という機関誌を発刊してきた。

「週刊現代裁判」でも、原告側 (JR総連ら) から、この機関誌を証拠として提出し、代理人が尋問で「(JR労研は) 革マル派の介入を許さず JR内で労働運動をやっていこうとする団体ではありませんか」と質問するなど、JR総連自らがその存在を認めている。

動労型・政研型の労働運動で連合をつくりかえると豪語！

ところで「JR労研」は何を目的に「JR内で労働運動をやっていこうとする団体」なのか。「JR労働者の実践」創刊号の中央幹事会名「結成アピール」のごく一部を紹介する。

日本の革新と労働運動の惨状

資本と権力の労働者・人民への一大攻撃に対し労働者の側はどうであろうか。異を唱え行動する党も労働組合も (私達を除いては) 皆無である。... 日本労働運動は、すでに現代版産業報告会と化している。

茨の道を労働者らしく切りひらく

資本と権力とその手先たちに労働者らしく対決し、道を切りひらいていくのみである。この道は茨の道であろう。現に私達がより労働者らしくたたかっているがゆえに、ありとあらゆる攻撃がしかけられている。

先達のたたかいを学び、新たな創造を

「動労型労働運動」を創造した担い手は、当時の動労内において真剣に、科学的に労働運動の前進を目指した「政策研究会 (政研)」であった。「動労型労働運動」は、... 「政研」の強化・拡大に比例し強化され、日本労働運動に大きな影響を与えるまでになったのである。

全ての職場に「JR労研」の旗を！

新たなファシズムの只中における私達の任務は、以上からしてもはや明らかであろう。

第一は、新たなファシズムに反対し、改憲を許さず労働者の利益のために真面目に労働組合運動をおしすすめている、あるいはおしすすめんとする仲間を結集し、全職場に「JR労研」の旗を掲げることである。第二は、ファシズムの下支えとして存在を許されている JR連合とその下に吸収合併される運命にある国労の解体にむけたたたかいを断固としておしすすめ、「JR労働運動の労働者の統一をめざして奮闘することである。そして第三は、現代版「赤色労働組合運動」をのりこえ、国家と大企業の利益に埋没するナショナルセンター＝連合を労働者の利益に適う日本労働運動の拠点へのつくりかえるために力をつくすことである。

「革マル派の介入を許さず」といっても、この内容は、連合運動を徹底非難し動労型労働運動の再興を訴える革マル派の主張と酷似している。「政研」は松崎氏も所属し、革マル派との関係が深いと言われてきた動労左派系の派閥。本間氏証言によれば、こうした運動を目指す闇の団体が、JR総連や東労組など組合組織を実質支配しているという。共産革命を目指す革マル派が、運動面でもJRに浸透しているとすれば大変な治安問題である！